

令和2年度 北九州市発達障害者支援地域協議会 議事録

- 1 会議名 令和2年度 第6回 北九州市発達障害者支援地域協議会
- 2 開催日時 令和2年11月27日(金) 19:00～20:45
- 3 開催場所 WEB会議 (Microsoft Teams を使用)
- 4 出席者
 - (1) 委員 (敬称略)
中村貴志、倉光晃子、長森健、天本祐輔、尾首雅亮、黒木八恵子、森本康文、シャルマ直美、森永勇芽、伊野憲治、森山謙治、國友信次 計12名
 - (2) 事務局
精神保健福祉課長 安藤卓雄
 - (3) 基調講演講師
米光 真由美
森本 康文
板垣 諒
- 5 会議次第
 - (1) 委員紹介
 - (2) 基調講演
西日本工業大学 保健室 教育カウンセラー 米光 真由美 氏
ワークネット北九州 管理者 森本 康文 氏
板垣 諒 氏
 - (3) 意見交換
テーマ「大学生の支援、就労への支援 (在学中からの切れ目ない支援)」
- 6 会議経過 (意見交換)
米光氏、森本氏の講演は資料参照
以下、上記2名講演後を記録

○板垣氏の略歴

【板垣氏】

生まれは北九州、現在も北九州在住。小・中学校は市立学校を卒業。県立高校入学後、高校2年の1学期に通えなくなり、通信制の高校に転入。通信制の高校を1年遅れで卒業後、国立大学の教育学部(美術・芸術専攻コース)に入学。当初通学できていたが、途中通学できない期間があり、7年かけて大学卒業。森本氏が以前勤めていたジョブサポートセンター八幡に大学在学中～卒業後半年間通い、現在勤めている税理士法人TAパートナーズに就職。

【森本氏】

高校を転入したときに困っていたこと、難しさを感じたことはあるか。(発達障害診断前)

【板垣氏】

小・中学校はクラスメイトが変わらず周囲の環境に変化がないまま順調に学校生活を送っていたが、市内の高校に進学後、周囲の環境・人間関係の変化に対応しきれなかったこと、勉強の厳しさ（朝課外等）に耐えられなかったことで、通えなくなった。

【森本氏】

高校に通えなくなったときに、その際の保護者の対応をストレスに感じるケースがあるが、保護者の対応はどうだったか。

【板垣氏】

叱られたりした記憶はないが、あの手、この手で学校に行くよう提案してきて、多少なりプレッシャーは感じた。

【森本氏】

高校時代に転入を経験して、どこの大学に入学して、どういうことをしたいなど、夢はあったか。

【板垣氏】

大学に入るときは国語、数学等の勉強をしたくないと思っていて、昔から絵を描くことが好きだったため、美術系の大学に入って、その勉強をしたいと思って大学に入学した。

【森本氏】

大学入学後、発達障害の診断を受けたときに大学で困っていたことはあったか。

【板垣氏】

高校のときよりも環境の変化に一番の戸惑いを感じた。小・中・高校は授業を受けていれば1日を過ごすことができたが、大学になると講義の登録、キャリア教育等、自分でやることを決めて、研究室等も自分で関係性を築く必要があり、自分でやらないといけないことが多く困っていた。

【森本氏】

広汎性発達障害の診断を受けたとき、診断名に抵抗は感じたか。
また、保護者の反応はどうだったか。

【板垣氏】

診断を受けたときは精神的にきつかった時期だったので、救われた感じがした。
親は教員をしており、発達障害の知識があったようで、薄々発達障害ではないかと思っていたらしく、すぐ納得してくれた。

【森本氏】

大学には学生支援室集中支援部門があったと思うが、発達障害の診断を受けた後、その支援機関に繋がったきっかけは何だったのか。

また、大学を卒業、就職する際に問題があったと思うが、支援機関の大事さは今でも感じるか。

【板垣氏】

大学の保健管理センターのメンタルヘルスの先生と定期的に面談しており、その先生から紹介してもらった。

支援機関がなかったら大学を卒業できていないと思うし、今どうなっていたかわからないと思う。

【森本氏】

板垣氏が大学4年時に学生支援室のナカシマ先生から、私の事業所に電話をもらい、翌年3月に卒業見込みだが、障害特性としてコミュニケーションが苦手なので、就労移行支援事業所で訓練し、卒業時の就職先を探してほしいと依頼があった。

そのとき大学に籍を置いたまま就労移行支援を始めることになったが、抵抗はなかったか。

【板垣氏】

一緒に入学した同年代は全員卒業していたため、大学内で話せる人がおらず、周囲と話せる環境がどこでも良いので欲しかったので、全く抵抗はなかった。

【森本氏】

就労移行支援事業所でコミュニケーションスキルのアップを中心に訓練を受けて、そのときに現在勤めている会社と繋がりができたが、経緯をお伺いしたい。

【板垣氏】

会社の代表と森本氏が以前からの知り合いで、代表は障害者の就労支援に興味を持たれており、税理士としても障害者支援をしている人たちの支援をしたいと考えている方で、森本氏から紹介を受けて、私自身も代表の考えに興味を持ったので、実習等をお願いして就職に至った。

【森本氏】

板垣氏は事業所で訓練をしていたときから税理士として働きたいと意思決定しており、税理士になるための資格取得の勉強もしていたと思うが、どうだったか。

【板垣氏】

森本氏から現在の会社を紹介してもらう前に、たまたま簿記の勉強を始めていて、それが活かせる仕事ということもあり、税理士事務所に就職したいと思うようになった。

【森本氏】

勤めている税理士事務所の紹介をお願いしたい。また、社員は何名いるか。

【板垣氏】

勤めている会社は税理士法人なので、基本業務は税務や会計の仕事になるが、先ほど言ったとおり、代表は障害者支援に興味があり、障害者も含めたすべての人が生きやすい世の中を作りたいという目標を持って、会社も税務、会計以外の仕事全般で支援できるようにしたいと考えて、社内での活動の場を設けるためイベントの企画など、雑多な仕事もしている会社である。

社員はパートを含め25名で、沖縄の支社も含めると30名弱。

【森本氏】

以前会社を訪れた際に、板垣氏が美術系の大学を卒業されているので、社員の誕生日に絵を描いてプレゼントする係になったと聞いたが、そういったことか。

【板垣氏】

会社では様々な福利厚生イベントがあり、その中の一つに毎月社員の誕生日にみんなからプレゼントとメッセージを渡すものがある。

入社して1か月ぐらいのときだったと思うが、そのメッセージの絵を描く係を自ら名乗り出て取り組むことで会社に溶け込むことができたと思っている。

【森本氏】

板垣氏は大学に入学してからスムーズに社会人になった印象を受けているが、大学で合理的な配慮に欠けて苦勞している学生を事業所でよく見かけるが、大学でこういった合理的な配慮があれば良いと思うか。具体的にあればお伺いしたい。

【板垣氏】

米光氏の講演でもあったが、居場所作りが大事だと考える。1つは、大学の学生相談を拡充して居場所ができるようにしてほしい。それと、大学の外での居場所作りが大事だと考えており、家と大学の往復だけでは、ストレスを抱えたときに家に引きこもりがちになり、大学に行けなくなる場合があるので、外に居場所があると良い。私の場合は就労移行支援の訓練を受けて、大学の外で居場所を作ることができたので、自分を客観的に見ることで良かった。

【森本氏】

事業所の利用者を通じて、大学の中でも支援に積極的な大学と発達領域の学生に支援が行き届いていない大学があると感じることがある。例えば、今年4月から利用を開始した2名で、1名は在学中から就労支援事業所や障害者雇用の実習を行い、会社からの評価で、このまま働くのはハードルが高いため、私の事業所を利用することになった。もう1名は、大学の先生から自閉傾向が強いため、そのまま仕事をするのは難しいと判断されていたが、大学の支援を受けずに卒業後3年間引きこもり、その後たまたま私の事業所を利用することになった。

板垣氏の場合は、良いことが重なって、良い就職先も見つかって働かれていると思うが、これから働いていくうえで、夢はあるか。

【板垣氏】

まず目標はこのまま働き続けることで、その先の夢として、一人暮らしをして自立した生活を送ることが夢である。

○大学でのストレスマネジメント教育について

【委員】

大学の教員として、発達障害・発達障害の可能性のある学生がいて、大学の事務局（学生課）より具体的な配慮願いを受けて対応しているが、これまでの話を聞いて、学生たちのサポートの普遍化、アクセスのし易さ、個別の柔軟性のあるサポートの提供を大学で整える必要があると感じた。

そこで、米光氏に2点、お伺いしたい。

1点目はストレスマネジメントや発達障害に関する啓発的な講義をされているが、大学のカリキュラムの中でどのような科目や機会に講義をしたのか。

2点目は講演の中に学習・行動理論を用いた教育実践をされたと話していたが具体的にどのようなことをしたかお伺いしたい。

【米光氏】

ストレスマネジメント教育というのは、私が高校で教員をしていたので、健康や自己管理、食育などあるが、大学でまず行ったのは性教育と喫煙教育を行った。その中でストレスマネジメント教育がこれからの大学生の進路保障に必要なことだと現場にいて感じていたため、キャリアアップやキャリア教育の講義の1コマをもらっていた。それが定着してからは、大学1、2年生に前期・後期でストレスマネジメント教育の講義を入れてもらい、その中で発達障害のことも教えている。

学習・行動理論を用いた教育実践は、して見せるところは、モデルを言って聞かせて、耳を傾けて一緒になって考える。させてみてのところは、行動のリハーサル、一緒に体験してみる、褒める体験を教える。大人の私たちでも褒められると笑顔になるので、発達障害の人は小学生的のころからずっと怒られてきているので「すごい」「頑張った」と評価しないと人は動かないということも含めて、教育実践している。

【委員】

米光氏にお伺いしたい。

私立大学に通っている学生への個別支援は特別扱いと思われるので、配慮の相談がやりづらい、そのためにストレスマネジメント教育を大学側から行ってもらうためには親の側からどういう働きかけ、依頼をしたらよいか。

【米光氏】

ホームページに学長宛の問合せメールがあるので、保護者や関係者の思いを伝えてもらうと大学側に伝わると思う。私自身も伝えているが、一人の力では難しいところもあるので、保護者のみなさまからも伝えてもらうと良い。

西日本工業大学では、保護者懇談会というものがあるので、そのときに保護者としての希望、要望を伝えてもらうと現場は助かる。

○企業への働きかけについて

【委員】

私は発達障害者支援センターつばさに長年勤めてきて、特に成人の高機能の方と接する中で、当事者の方のユニークさを軽視しがちになり、私の文化に近づけようとしてしまう姿勢があったと反省することがあった。ユニークさを尊重したうえで、働き方を考えていかないといけないと思っており、コロナの影響で在宅ワークが増えたことで調子が良くなった方が増えてきている。そこで、森本氏にお伺いしたいのは、私たちが企業に働きかけて、本人に合う仕事、本人に合った仕事のやり方を一緒に考えていく必要があると思うが、どのようにしたら良いか。

【森本氏】

基本的に働くにあたり、企業が本人に合わせる部分、本人を理解する部分が必要だと思うが、賃金を対価にもらう以上は、本人が企業に合わせるスキルを訓練や実習の中で行い、出てきた問題点を修正しながらスキルを育てていくようにしている。しかし、企業側は発達障害への理解が足りないことが多いため、企業実習に行く際には、本人の弱い部分、強い部分を取り扱い説明書として作成して、事前に企業側に提供し、周りの方に理解してもらい、環境を整え

るようにしている。最初から企業側に障害特性を理解してもらうように働きかけるのは難しいため、実習等を通して実際に働く場面で、発達障害の方の生きづらさ、仕事のしづらさを分かりやすく説明して理解を深めてもらっている。

【委員】

県の事業で、特例子会社に3ヵ月在宅で働く（最初の1月半はパソコンの勉強、残りの1月半で仕事）事業をやっていたが、それに合う方も多いかなど思っていた。一人ひとりの個性にあった仕事を見つけていく作業が必要だと思っているので、市でそのようなモデル事業があると良いなと思った。

○悩み相談について

【委員】

板垣氏の話聞いて、米光氏の講演の最後のメッセージ「人生にはさまざま可能性がある一つの道を追い求める必要はない」を体現していた。これはすべての人に有意義なものだと思う。

さて、米光氏にお伺いしたい。

講演の中で悩みを上手に相談できない（親に話せない）方からうまく悩みを聞き出すことができたと思ったが、個人的に米光氏だからできたことと、組織が動かないとできないことがあると思うが、あればお伺いしたい。

【米光氏】

相談される側は敷居を低くしないといけない。なぜなら彼らはこれまで悩みを抱えながらきているので、はじめから相談目的で来るというより、コーヒーでも飲みに行こうかとフランクに行ける場所、板垣氏の話でもあったが居場所づくり、あそこに行けばホッとするような居場所づくりが大事だと思う。本音が話せるような環境づくり、開かれた保健室を目指している。

組織としては、私は小さな保健室で何でも屋として活動しているが、経営陣、上層部がこのポジションは大事だと、学生一人ひとりを大事にしないといけない、この大学を選んで入学してきた学生が来て良かった、卒業して良かったと言わせるぞという気持ちになってもらうように、日々取り組んでいる。ただし、私たちは医療や就労支援のプロではないので、精神科の先生や就労支援のプロの方がいるので、餅は餅屋ではないですが、みんなで協力することが学生の背中を押す一つの要因になるのではないかと考えている。

○当事者家族として

【傍聴者】

私自身と子どもも発達障害の当事者で、子どもは大学院に通っているが、大学院2年生になってもまだ就職先が決まっていない。コロナの影響もあるが、筆記で合格しても、面接で不合格になってしまう。これまで留年も浪人もせずに来ているので、本人は真面目にコツコツやってきているが、そういったところは面接で評価されることはない。障害者雇用枠で、某市役所を受験したときに7名採用予定で1名しか合格していないことがあり、新たな試みで試験方法を成績証明の取り寄せに変更して追加募集している。障害者雇用で基準に達していないから採用しなかったとなるなら何をもって基準としていたかわからないので、面接で実力を発揮できないなら、その市役所のように成績証明を取り寄せて学校生活の態度なども評価してもらいたいが企業は面接で型にはめられてしまうので、どうしようもない。その場合就労支援を受けたほうが良いのか、それとも企業側の人事の方が発達障害に関して良く存じているので、発達障

害だと知れ渡ることによって、取り扱いが難しいから面接で落とすことになってしまわないか
思っている。

発達障害の人にとってどのような採用面接、採用の仕方が合っているのかというのを新たに
作って、企業側にアプローチできないか提案したい。

【事務局】

行政として、共生社会の実現を目指しており、その中で企業関係者の方々に発達障害の人と
共に働く魅力、こういう働き方をすると伸び伸び働いてくれる、実力を発揮してくれるという
ことを伝えることができているのではないかと思っている。発達障害という言葉や基本理念
は知られるようになってきているかもしれないが、そのために返って、扱いが難しい、困りそ
うだなというイメージが先行していないかと思っており、これは北九州市発達障害者支援地域
協議会の中で議論を深めていくべき問題だと思っている。

板垣氏が勤めている会社は積極的に共に働くことを実践している会社で、以前から注目して
いる会社である。共に働くことの楽しさや魅力というものを前向きに発信していくことをしっ
かりやっていると、見えない壁、ハードルができてしまったと言われてしまうかもしれな
いと思っており、今回は重要な提案をしていただいたと考えているため、地域協議会で掘り下
げて議論をしたい。

○本日のまとめについて

【事務局】

令和元年度から重点課題に沿って6回議論を重ねてきて、議論が足りないこと、深めないとい
けないことそれぞれあると思うが、次回の会議ではこれまでの議論を一度振り返って、重点
課題ごとにこれから深めていくべき論点はなにか、それから次年度に具体的なアクションが始
められるものがないか、整理する回にしたいと思っている。

それと、合わせて専門部会の立ち上げが必要ではないかと考えている。これは深めていく議
論をしていくときに地域協議会だけで深めていくには時間・メンバーが限られるため、難しい
場合があり、会の構成そのものについて工夫をするべき時期に来ていると考えている。そのた
め、次回は具体的にそれを提示したいと考えており、例示を挙げると議論が深められていない
強度行動障害の部会が必要ではないかと行政内部で考えており、これだけで良いということでは
ないが、このように専門部会で進めていくものと地域協議会で進めていくもの、具体的なア
クションを始めるものなど、次回はそれを整理する回にする予定である。

7 今後のスケジュール

令和3年1月中旬開催予定

8 閉会